

実践「グローバルリーダーシップ in ミャンマー」

～活躍する社会人となるために～

Global Leadership Program in Myanmar

牟田 美信、岩崎 千恵

1. はじめに

本学において、国際コミュニケーション学科では、唯一、ギャップターム（1年次8月～11月）を設定し、その期間中に学生は「3ヶ月留学」「短期留学」「国内有給インターンシップ」「サービスマーケティング」の中で自己実現に近いもの、もしくは自己実現に貢献するための科目を履修する。このギャップターム期間中の体験は、学生らに様々な知識や視野を広げる機会を提供するだけでなく、短大での学びの中心である語学や異文化理解の力をより深く醸成させており、さらなる学習への動機付けともなっている。

今回で3回目となる「実践グローバルリーダーシップ」プログラムの対象国を、ミャンマーとした。2018年6月に法務省より発表された在留外国人の中で、ミャンマー人が占める割合は0.88%と全体の1%にも満たないにも関わらず、本学には2018年の留学生全体数に対してミャンマー人留学生が占める割合は、50%と高い。

しかしながら、学内におけるミャンマー語やミャンマー文化に対する認識は必ずしも高いとは言えず、今回の実践グローバルリーダーシッププログラムでは、学生だけでなく教員にとってもミャンマーに対する認識を新たにす契機となった。また、出発前にはミャンマー人学生は日本人学生に対して事前研修を行い、日本人学生はミャンマー人学生に研修時の日本語の支援を実施するなど、双方にとって有意義なプログラムを企画し、実施した。

現地においては、本学のミャンマー人留学生が在籍していたミャンマーの日本語学校を訪問し、日本人学生による日本語指導体験、現地ミャンマー人学生によるミャンマー語講座、学生同士の交流を通じた異文化体験を図った。加えて、保護者会・同窓会も学生協力のもとに実施した。その他、有名な黄金のパゴダ（寺院）を参拝することでミャンマーでの信仰の様子を、象乗り体験場では自然・動物保護運動を、ミャンマー内の異なった民族の食事を通して多民族が混在する現状を、ショッピングを通してミャンマーの特産物を視察し、ミャンマーならではの異文化体験をすることができた。

アジア最後のフロンティアとも称されるミャンマーでは、観光ビザも試験的に日本人・中国人・韓国人に解禁されたこともあり、より容易に、急速に発展する様子を視察することのできる訪問が可能となった。今回はミャンマー人の教員やスタッフのアレンジの元、通常の旅行者としては得難い多様な行事が含まれたミャンマープログラムとなった。また、将来、海外で日本語を教えようと考えている学生にとっても大変参考となるプログラムとなった。

2. 過去2回のグローバルリーダーシッププログラム

2.1 平成28年度「グローバルリーダーシッププログラム in Korea」

平成28年3月21日（火）から3月24日（金）3泊4日で韓国・太田と釜山で研修を実施した。これは、自らの考えを海外においても発信できる力をつけることを目的に、韓国の「新羅大学」、「釜山女子大学」、「培材大学」において、各大学の学生によるプレゼンテーションとディスカッション、学生同士の交流を行った。また、韓国にある日系グローバル企業（山口銀行釜山支店）を訪問し、海外で仕事をすることの喜びや大変さ、現地での日韓交流に関して話しを聞き、意見交換を行った。試行的なプログラムだったが、学生からの振り返りから、

かなりの手応えがあった。(牟田、2017)

2.2 平成29年度「グローバルリーダーシップ in Hokkaido」

平成29年3月12日(月)から3月15日(木)3泊4日で北海道武蔵女子短期大学の学生との学術交流(プレゼンテーションやディスカッション)を実施した。日本国内でも北(北海道)と南(長崎)という、互いに異文化ともいえる環境で生活する同世代の学生同士の主体的な交流を通じて、1. キャリアの面から視野を広げる 2. 豊かな人間関係を築く楽しさを感じる 3. リーダーシップを育成することを目的とした。具体的には、本学学生と北海道武蔵女子短期大学の高橋ゼミの10名の学生と、地元の観光や地元文化、大学等の紹介、自分のキャリアプランなどの発表を行い、質問し合い、互いに学び感じ、刺激を受け合った。双方の学生にとって、将来の職業選択に関して、興味深い貴重な意見交換の機会となった。(牟田、2018)

3. ミャンマー事情

国旗：2010年10月21日に制定、黄色は国民の団結、緑は平和と自然、赤は勇気と決断力を意味している。

正式国名：ミャンマー連邦共和国 (Republic of the Union of Myanmar)

国家：われ、ミャンマーを愛さん

面積：約67万8500km (日本の約1.8倍)

人口：5283万人 (2018年4月、IMF推計)

首都：ネービドー (2006年10月にヤンゴンより遷都)

元首：ウィン・ミン大統領

政体：共和制

民族構成：ビルマ族が約70%、シャン族9%、カレン族7%、その他、135の民族が居住。

宗教：国民の85%が仏教徒(南方上座部仏教。ただし、華人の大乘仏教徒もいる)、キリスト教4.9%、イスラム教4%、ヒンズー教、アニミズムなど。

言語：公用語はビルマ語、少数民族はそれぞれ独自の言語を持っている。北部や東北部では中国語、シャン州東部ではタイ語も通じる。

(地球の歩き方 ミャンマー(ビルマ) 2019-20 p.8)



4. 「グローバルリーダーシップ in Myanmar」の事前準備

渡航準備段階において、次の①～⑤を実施した。

- ① 日本人学生による現地情報の収集とミャンマー人留学生への情報確認
- ② ミャンマー人留学生による日本人学生への講義(ミャンマー語、ミャンマー事情、マナー等)
- ③ 日本人学生による現地日本語学校での日本語レッスンの準備 *ミャンマー人学生の模擬授業あり
- ④ ミャンマー人学生による日本の大学生生活・観光紹介ビデオの作成
- ⑤ 持参する長崎・佐世保の観光情報パンフ等の収集、現地日本語学校に寄贈する教材の作成と収集

準備段階において、ミャンマーの学生にとっては、自分の国の言語や文化が紹介できるということで、いきいきと楽しみながら取り組んでおり、自国に対する再認識の機会になった。また、日本人学生にとっても実際これからミャンマーを訪れるという緊張感や期待もあり、日本語教師としてのレッスンの準備も真剣に取り組んでいた。ミャンマーの日本人学校の学生、保護者は、先輩が生活している環境や大学生生活について、映像を通してミャンマー語で紹介してくれたことを非常に喜んでおり、また、このような日本人学生や教員が日本で対応してくれることに、入学する不安も解消され、安心感を抱いたようだった。

(準備スケジュールと概要)

・2/6 9時～11時「言語テキスト作り」

*作成したものは、渡航前講座で日本人学生へ配布

- ・2/8 9時～11時「言語テキスト作り」
11時～12時 旅行ガイド作成
- ・2/9 同窓会・保護者会用の映像作成
9時～11時 ビデオ作製
- ・2/13 9時～11時 ビデオ作製
- ・2/15 9時～11時 日本語レッスンの準備
日本人学生は、ミャンマーでの日本語教育の練習（ミャンマー人学生は、日本語教室生徒役）
- ・2/22 9時～11時 ミャンマー語 ミニレッスン
ミャンマー人学生が教師として、日本人生徒に教える。
- ・2/27 9時～11時 ビデオ作製（字幕等）
日本・ミャンマー学生協働で実施。

5. 「グローバルリーダーシップ in Myanmar」の研修内容

今回は、引率教員2名と国際コミュニケーション学科の1年生6名の参加となった。学生の募集にあたっては、この研修の意義・目的をしっかりと伝え、単純に渡航するだけでなく、より充実した研修になるように、事前準備には必ず参加できることを条件とした。

(旅程と主な内容)

平成31年3月2日（土）

タイ航空 TG649 便 (FUK 9:40 - BKK 11:40) → (乗換) → タイ航空 TG305 便 (BKK 18:05 - RGN 18:50)
到着

宿泊場所：Summit Parkview Hotel Yangon <https://summityangon.com/>

- ・ホテルへチェックイン後、ホテル付近のミャンマー屋台で多民族食文化を体験

平成31年3月3日（日）

- ・日本語学校（以下、かがやき日本語学校）をベースに、卒業生・保護者との面談。平成31年入学予定者と保護者への学校説明会を実施。在学生の保護者も遠方から駆け付け、子弟への教育熱がうかがえた。平日はこの週に、日本におけるセンター試験的なものが行われるために渋滞が予想されるということで、保護者も移動しやすように、日曜に保護者会を設定してもらった。
- ・ミャンマー文化体験として、ミャンマーの伝統的な結婚式へ参列した。学生は日本の浴衣で参加し、交流をおこなった。

平成31年3月4日（月）

- ・かがやき日本語学校において、学生が日本で作成した短大紹介VTR、佐世保PR動画を流し、新留学生に事前知識を提供し、不安解消に努めた。
- ・事前にかがやき日本語学校から要請のあった「漢字の書き方」に特化した日本語ミニ授業を学生が実施した。事前準備を綿密にしていた為、わかりやすく面白かったと好評であった。
- ・ミャンマー人学生が日本文化を楽しむことができるように折り紙で一緒に手裏剣を作って交流した。また、佐世保・短大かるたを自作し、工夫を凝らしたレッスンを行った。
- ・日本人・ミャンマー学生共に生き活きと活動しており、非常に満足度の高いイベントであった。
- ・ミャンマーでホテルを経営している卒業生の朴ヒュンさんと母親の招待で、昼食会に参加した。先輩から海外でのビジネスや、短大時代の過ごし方、未来の見方など多くの話が聞くことができ、実りのある先輩訪問で

あった。現在は、ホテル以外に教育関係のビジネスを立ち上げており、充実した生活を送っているとのことだった。短大時代に学んだことが、生かされているので、しっかりと今を頑張るように学生に話をしてくれた。

・学生たちは「ミャンマー」への興味が一層深まっているようで、「ミャンマークラブを作りたい」との声が上がるようになった。

平成31年3月5日（火）

・ヤンゴンから離れた「ポゴ」という町をミャンマー人学生も同行して訪問した。ここは密猟者から親を奪われた子象の保護施設であり、入場券等の収入でその保護施設を運営している場所である。学生らはここで子象へミルクをやったり、餌を与えたりして、ミャンマーにおける動物保護や密猟に関して多くのことを考えたようである。

・第2次世界大戦の時に多くの日本兵が戦死され埋葬されている墓地を参拝した。大きな敷地に多くの墓標は戦死者の数を思い起こさせ、改めて現在の平和について考える良い機会となった。

・ヤンゴンへ戻ってからはパゴダ（仏塔）へ参拝した。日本の仏教とは異なる仏像や参拝の仕方に学生たちは驚きつつも、同行した学生に説明を聞きながら異文化体験を行った。

平成31年3月6日（水）

・最終日は、ミャンマー人学生の案内で、市役所などの150年前（英植民地時代）の建築物の見学など市内観光をおこなった。ヤンゴン市民の市場であるポージョーアウンサーマーケットでの買い物体験では日本とは異なる値段の安さや、ディスプレイ方法等に驚きつつも、ミャンマー学生に手伝ってもらいながら買い物を体験した。その後は、在校生の父兄に昼食で民族料理をふるまっていたいただき、帰国の最後の最後までミャンマーのおもてなし文化を体験することとなった。

タイ航空 TG306 便（RGN 19:50 - BKK 21:45）乗換

平成31年3月7日（木）タイ航空 TG306 便（BKK 01:00 - FUK 8:10）福岡着





6. 学生の感想（学生 A～E は日本人学生、ミャンマー学生は聞き取りから記述）

（学生 A）グローバルリーダーシップに参加した理由は、今しか行く機会ないだろうなというちょっとした理由だったのですが、実際に行ってみると人はとても親切で優しくて道や建物も思っていたより綺麗だったので驚きました。

普通の観光では経験できないことを沢山することができたのでとてもよかったです。毎日どこかのレストランに連れて行ってもらい美味しいものを食べることができて幸せだなと感じました。今回の計画を立ててくださった先生方がかがやき日本語学校の先生方、研修を楽しませてくれたミャンマーの学生に感謝します。ありがとうございました。

機会があればまた行きたいです。

（学生 B）この5日間はとても濃い日々で、たくさんの事を考えさせられ、学びました。私がミャンマーの文化ですごいと感じたことはたくさんあるのですが、その中でも特にすごいと思ったのが、お腹が空いたら知らない人の家に行ってもご飯を食べさせてくれることと、家族をとても大切にしていることです。まず、お腹空いたら知らない人の家に行ってもご飯が食べれるのは（原文ママ）、ミャンマーでは相手にした事は自分に返って来るという考えがあるからだそうです。しかしながら、私がもし、その考えがあったとしても、見ず知らずの人に急に家に来られてご飯を食べさせてと言われても不審に思ったりして、食べさせないと思います。そういう点においては、日本よりもおもてなしの心があり素晴らしいなと感じました。かがやき日本語学校の先生や、ご飯と一緒に食べた親御さん方も私達にたくさんの料理を食べさせてくれ、こんなにも奉仕してくれるのかと思うぐらいおもてなししてくれました。日本人はおもてなしがすごいなどと言われていますが、ミャンマーも負けていないとすごく感じました。

そして、家族をとても大切にしていることについてですが、これは本当に素晴らしい事だと思っています。その他にも目上の方への気遣いなども素晴らしいと感じました。かがやきの学生達は先生のお母さんと一緒にいる時、歩いているときは手を添えて一緒に歩いていたし、荷物は持ってあげてたし（原文ママ）、ご飯だって（年長者が）先に食べてから自分たちが食べます。日本人も目上の人を敬っていないわけではないですがここまで徹底して敬っているのは少ないと思います。また私と同じくらいの子たちだけでなく、幼い子までが家族の事を思って働いたり（原文ママ）、勉強していることもまた素晴らしいと感じています。だからこそ、一生懸命勉強するし、積極的に授業も受けているのかなと思いました。私も、高いお金を家族に払ってもらって大学に行かせてもらえて、勉強できているということを忘れずに感謝して、もっと意欲高く勉学に励もうと思います。

たくさんの出会いによって自分の考え方や価値観などが少しは変わったような気がします。ミャンマーに来ることができて本当に良かったです。ぜひまたミャンマーに行きたいです。

（学生 C）今回の研修で私はミャンマーと言う国に惚れ込んでしまいました。安倍総理がミャンマーを訪れた際に「夜に女性が出歩いても大丈夫な国。」といったように、東南アジアの中でもとても安全な国でした。それに加え優しく勤勉で家族を大切にするその国民性は、日本人が忘れかけている親族や氏族との繋がりを感じ

るものでした。

私はミャンマーで家族を大切に、友人も家族のように大切にすることを有り難さを強く感じました。これからは、今以上に留学生達のサポートと、勉強出来ることに感謝して検定の取得や留学に向けてがんばっていきたいと思います。

(学生D) 研修を通して感じたこと

- ・ミャンマーの方々はとても優しく、心配りが隅々まで行き届いていて私も日本にいる留学生や外国人に今よりも優しくしないといけないと思いました。
- ・食べ物に関しては辛い物が多かった。あとカニなどの甲殻類の揚げ物が多かったと思いました。あとフルーツはもちろんフレッシュジュースなど新鮮でおいしかったです。
- ・日本に関連する物が多くあったと思います。日本車や日本食レストランなどまた、日本語学校も想像より多くあったと思いました。

異文化を感じたこと

- ・ミャンマーは仏教徒が多く短期出家をする人が多くいる事。
- ・日焼け防止効果や体温を下げることのできるタナカ。
- ・ミャンマーの民族衣装『ロンジー』はもうすべての人が着ていました。デザインもたくさんありとてもかわいかったです。

ミャンマー訪問のビフォーアフター

- ・行く前は道路も舗装されていなくて発展途上国なのかなと思っていましたが訪れてみると道路はきれいで建物も大きくて驚きました。また現地の人はとても優しく日本人はいいと言われるけどミャンマーの方々のほうがとてもいい人だと思いました。

自分のこれからの生き方に何かヒントになったこと

- ・今よりもっと他の人に優しくします。また、短大の留学生ともっと積極的に話をし、留学生のみんなが楽しい留学生活を送れるようにサポートしていきたいです。
- ・海外に行くことはいいことだと思いました。今までは海外行きたいとは思っていたけど行動できずにいたので今回の研修に参加できて本当によかったです。海外に行くことで日本の良さや行った国の良さなどたくさんの事を知ることができるのでこれからはたくさんの国に行ってみたいと思います。

(学生E) 今回、ミャンマーに行けて本当に良かったと感じています。一番印象に残っているのは人の優しさです。そしてご飯も美味しく、日本人墓地に行ったのも良い機会でした。一緒にいった日本人メンバーとも以前より話ができて、やったことのない日本語教授をしてみて、楽しかったです。今回日本に来たミャンマーの学生のご両親がおもてなしをしてくれたのも、すごく嬉しかったし、子供を心配している様子も伝わってきました。言葉で表すのが難しいくらい、得たものは沢山あります！観光はもちろん楽しかったです。でも貧困層を見て、こういう人たちがいるという現実を見ました。日本との違いが面白かったです、でも良い違いばかりではないとも思います。そしてこのミャンマー研修で私は少し積極的になれた気がします。日本に帰ってきてからも、やってみたら案外できるかも、と考えるようにもなりました。実際先日、留学生のお手伝いをしてみて、以前より自分から話しかけることが簡単に出来ました。だからこれからも、色々なことに億劫にならずやってみてみたいと思います。また、近いうちに行きたいです。

(ミャンマー人学生からの聞き取りから)

今回のグローバルリーダーシップ事前プログラムに参加して、ミャンマー人学生の多くは自己のアイデンティティと日本語に関して自信をもつきっかけになったようである。まず、今まで日本語の不十分さから自信

をもって日本人学生と交流ができなかったが、佐世保 PR 動画作成や学内行事撮影をするために日本人学生と一緒に多くの時間を過ごす中で、「自分の日本語でもしっかりと伝えることができた」（学生 F）、「外国人が（としての自分が）見つけた良いところを日本人学生がいいと言ってくれた」（学生 G）、「活動が楽しかった」（学生 H）、「ミャンマー語や文化に関心をもってくれて嬉しいし、自分も助けができると思った」（学生 I）など、活動を通して肯定的に自己を捉えるだけでなく、何よりも「自分も何か他の人の為にできることがあった」という新たな気づきへつながった。

言語を使用して、誰かのために何かをなし得るという行為や満足感が自己実現へつながっていくことを体験したため、この後に学内で行われた行事にも今まで以上に積極的に参加するなどの変化が現れ、ミャンマー学生にとってもグローバルリーダーシップは良い教育結果を提示したといえる。

6. 今回の振り返りと今後の展開

3回目となるグローバルリーダーシップは、本年度はミャンマーで実施した。参加したほとんどの学生が初めての海外訪問であり、様々な面で日本との同一性や異質性を多く感じることができた。ただ訪問するのではなく、現地の日本語学校で実際に日本語のレッスンや同窓会・保護者会をするミッションをもたせたことで、緊張感と達成感を感じることができたようだ。今回は、準備に加わったミャンマー人学生からの感想も聞き取りから得ることができたが、今回のプロジェクトを通して、母国への再認識と誇りを感じ、また、日本人との絆が深まったことが推察された。

また、かがやき日本語学校における交流会は学生の語学に対するモチベーションを高めるだけでなく、現地の学生や保護者と交流することで、学生自身が誰かのために何ができるのかを改めて考える機会にもなった。また、それだけでなく年長者を敬う文化や、仏教の教えに由来する生活様式に直接体験することで、「外国」に関する知識・理解が深まるものとなった。また、海外で成功した先輩の声や日本で活躍している先輩留学生の話を通じて、学生たちは成功モデルとして自己の未来像を描くことになったと考えられる。

学生からの評価は「想像以上に充実したプログラムで、行かなかった人が可哀そう」というほど充実したグローバルリーダーシッププログラムであった。

今までの学生は欧米や韓国・中国のみに関心が高かったが、実際に足を運び、現地の友人を作ることでミャンマーへの関心が高まったことは確かである。また、友人をサポートしたいとの意見も多く出たことで、これから増えてくる留学生サポート体制作りを補完する成果のある訪問となった。

今回の経験をベースに、来年度以降も定期的にミャンマーでのグローバルリーダーシップを継続して行きたい。可能であれば、他の留学生の出身地（ベトナム、フィリピン、中国、台湾）を含めて、タイなどでも同様なプログラムを実施し、さらなる学生のグローバルマインドを醸成するプログラムを開発していきたいと考える。

参考文献

- 牟田美信（2014）国際コミュニケーション学科でのグローバル人材要請教育の試み、長崎短期大学研究紀要、26、1-6
- 牟田美信（2015）短大におけるグローバルマインド育成、長崎短期大学研究紀要、27、107-113
- 牟田美信（2018）国際コミュニケーション学科に於けるグローバルリーダーシップの開発、長崎短期大学研究紀要、30、97-108
- 高島正人、岡沢真文（2018）地球の歩き方 ミャンマー（ビルマ）2019～2020年版

参考ホームページ

外務省：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/myanmar/index.html>